

例 言

1. 本報告書は、熊本大学再開発計画によって熊本大学敷地内において実施された各種建築工事に伴い、熊本大学埋蔵文化財調査室が1994・1995年度に実施した発掘調査に関するものである。
2. 本書に収録した成果報告は、1994・1995年度に埋蔵文化財調査室が実施した発掘調査とそれに関連する立会調査などの成果のうち、(京町) 9405調査地点、(黒北) 9407調査地点、(渡鹿) 9408調査地点、(黒南) 9412調査地点、(渡鹿) 9413調査地点、(黒南) 9501調査地点、(本荘中) 9511調査地点の発掘調査の成果であるが、1995年度に会津地区で実施した(会津) 9509調査地点の発掘成果については割愛した。
3. 上記調査地点の報告にあたっては、
Ⅱ章：黒髪北地区 9407調査地点
Ⅲ章：黒髪南地区 9412・9501・9512調査地点
Ⅳ章：京町地区 9405調査地点
Ⅴ章：渡鹿地区 9408・9413調査地点
Ⅵ章：本荘南地区 9511調査地点
のように地区ごとに分けて報告する。
4. 以上の調査を実施した1994年度と1995年度の埋蔵文化財調査室の組織と調査体制は以下のとおりである。
1994年度 室 長：甲元眞之（文学部教授）
調 査 員：原田範昭（文学部助手）
事務補佐員：矢野希久代
1995年度 室 長：甲元眞之（文学部教授）
調 査 員：小畑弘己（文学部助教授）
事務補佐員：矢野希久代
5. 遺物番号は各地点ごとに1から番号を付けている。写真図版中の番号はこれに一致する。
6. 本書の作成は熊本大学埋蔵文化財調査室で実施した。
7. 本文の内容は、既刊の熊本大学埋蔵文化財調査室年報1・2（1995・1996）の内容の一部を使用し、小畑弘己が執筆した。とくに1994年度に実施された調査の調査経過・基本土層・遺構の記述など、調査所見に関連する部分は、調査に直接携わっていないため、年報の記載を重視し、体裁を整えるために部分的に修正を加えたが、その変更は最小限にとどめた。基本的にこれら原典の記述に遺物の記載とまとめを加えて本文とした。なお、その際、前任調査員の原田範昭氏（前埋蔵文化財調査室助手：現熊本市教育委員会文化課文化財保護主事）より助言・情報提供を受けた。
8. 本書に使用した遺構実測図に関しては、1994年度分は原田範昭をはじめ、山田康弘（前熊本大学考古学研究室助手：現鳥根大学文学部助教授）や調査に参加した熊本大学文学部考古学研究室学生諸氏、1995年度分は小畑をはじめ、調査に参加した熊本大学考古学研究室学生諸氏の手によるものである。
9. 本書に使用した遺物実測図は、9408・9413調査地点を原田範昭、9405調査地点を吉田正一（元熊本県文化課嘱託職員）、その他を古賀敬子、泗水直子、溜渕俊子、林田恵子、早田咲百合（埋蔵文化財調査室整理員）、尾上博一（現厳原町教育委員会生涯学習課）、宮本千恵子（熊本大学考古学研究室学生）、小畑、大坪志子（埋蔵文化財調査室調査員）が行った。

10. 本書に使用した図版の製図は小畑、大坪、坂元紀乃（埋蔵文化財調査室事務補佐員）・尾上が行った。
11. 本書に使用した現場写真は原田、吉田、小畑が、遺物写真は小畑と大坪がこれを撮影した。
12. 本書で使用した遺物観察表は、9405調査地点は原報告の観察表をもとに改変・追加し、その他の観察表は小畑、大坪、坂元が作成した。
13. 本書に掲載した出土遺物および記録類は、9405調査地点（京町地区の調査）分を熊本県文化課が保管し、それ以外のはすべて熊本大学埋蔵文化財調査室が保管している。
14. 調査および整理報告にあたっては、下記の機関および人々の指導と協力を得た（順不同、敬称略）。

熊本県教育庁文化課、熊本市教育委員会文化課、福岡市埋蔵文化財センター、熊本市立博物館、島津義昭、赤星雄一、網田龍生、板楠和子、稲津暢洋、今田秀樹、今村佳子、岩崎志保、岩谷史記、江本直、大城康雄、大貫静夫、岡本真也、尾上博一、遠部慎、金田一精、木崎康弘、木下尚子、工藤敬一、蔵富士寛、小谷桂太郎、古藤忠吉、坂田和弘、櫻木晋一、佐藤伸二、佐藤宏之、白木原和美、杉井健、高木正文、高宮広土、谷口武範、都出比呂志、田崎博之、椿坂恭代、富田紘一、中橋孝博、長沼孝、西住欣一郎、長谷部善一、原田範昭、林田和人、春成秀爾、平野芳英、福田正文、藤木聡、藤野次史、古森政次、松村真紀子、水ノ江和同、美濃口雅朗、美濃口紀子、宮崎敬士、宮本一夫、村上恭通、村崎孝宏、師富国博、山口隆男、山崎純男、山下実、山下義満、山下宗親、山田康弘、吉崎昌一、吉田麻子、吉田正一、吉留秀敏、米倉秀紀、米田修、渡辺貞幸、綿貫俊一。

15. 本書の編集は小畑が行った。